

編集後記

◆ 本号の前半は、堅苦しい土壌汚染の話が続いています。堅苦しい理由の一つは、それが法律に基づいた分析などの作業の説明が中心になっているからです。人体への影響を評価するためには何らかの基準が必要であり、またその数値を示すためにも、それなりの基準が必要となり、かくて堅苦しい法律とその適用が行われることになるのです。もう一つの理由は、それが負の遺産であることです。過去のある一時期に顕著に行われた汚染により、それがなければ平穏に暮らせたであろう人々がおびえることになったからです。先日、ある新聞のコラムに、土壌汚染があると、その調査だけでも数千万円、汚染の除去にはさらに桁違いに巨額の費用がかかることが記されていました。既に倒産した加害企業にはそれを支払う能力などなく、負の遺産のために延々と税金が投入されるのでしょうか。お、これはビジネスチャンスだ、などと考える者には、ヒ素か六価クロムが投げつけられるのでしょうか。

◆ 評者は先日、ハワイの火山を空から見るために、島間の定期便を空港で2時間前から並んで待ちました。座席は先着順と聞いていましたので、しかしながら、実際にはお年寄りと子供がまず優先され、翼の前の窓側の席は埋まってしまいました。帰りの便では、カウンターでの手続きでは良い席が取れました。しかしながら乗る間に、そんなものは無効だと言われました。これが御国柄というものなのでは

ようか。

◆ それに比べると中国との文化的な交流は順調に進んでいるようです。漢詩の素養のない者には、字面をすべて追いかけて読破するのにやや苦痛を感じてしまうところは問題ですが、このような解釈、このような地質学的背景があるのかと思えば、それなりに楽しめるというものでしょうか。

◆ 活断層研究報告会の紹介は、質疑応答まで入っている親切さがありました。地震災害軽減に向けて、研究者、行政、その他多方面の関係者が、御互いに理解しづらい話を懸命にしようと試みている様子が伝わってきます。そもそも、研究者の間ですら共通認識が得られないことを、どうやって外部に伝えられるのか、ほかの地質災害にも共通する悩みです。失敗経験の伝承などと合わせて、地質災害軽減の模索は続きます。

◆ 今年は宮城県などで被害地震が続いています。当所には既存の地質調査結果の蓄積があり、また緊急調査も行われました。それらについては随時本誌に投稿され次第掲載される予定です。

◆ そうですか、やはりアンモナイトは人気があるのですか。嘸みついてきませんものね。恐竜映画では人気がなくても、広く支持を得ているようです。そうになると、次回のレプリカ作成に登場する化石の立場が苦しくなりますか。
(須藤 茂)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤 茂

副委員長：谷田部信郎

委員：高木哲一・関口春子・中島 隆・
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
Tel. 029-861-3754
Fax. 029-861-3569

地質ニュース	第587号	2003年	7月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748)	〒実費	
2003年7月1日 発行			
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	E-mail: j-k@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2003 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ